

北海之光

4月号 北海道教区報

安らかに信頼している

ことにこそ力がある

イザヤ書 30章 15節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

F A X 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

「恐れてはならない」

新札幌聖ニコラス教会牧師補
札幌キリスト教会牧師補

執事 ノア 上平 更

イングランド中部ダービーシャーデールズにイーム(Eyem)という小さな村があります。一七世紀ペストがヨーロッパで大流行した時、たった一つの小包に紛れていたノミを媒介にしてこの村でもペストが流行しました。約八〇〇人いた村民の内、約二六〇人が命を落としたそうです。当時の村の教区牧師ウィリアム・モンベッソンと前任牧師トーマス・スタンレーは、村にもペストの影響が出始めた時、村人たちに全村隔離を実施しよう説得しました。完全に村の外と遮断することはできなかったようですが、物資の輸送についても受け取り場所を決め、代金を小川の中に置いて菌を洗い流し、硬貨も酢に漬けて殺菌するなど当時できる限りの感

染防止対策を施したと記録が残っています。礼拝も、村から少し離れたところにある、通気性の良い教会で行ったそうです。彼の妻もこの時ペストにかかって亡くなっています。大きな代償を払っても村を救うよう努めたウィリアム、トーマスらと、ペストで命を落とした村民を覚えて、毎年八月最後の主日にイーム聖ローレンス教会では記念式が行われています。

今、私たちは伝染病の脅威にさらされています。命が危険にさらされていると感じて平然としていられる人はほんの一握りです。死の恐怖に怯えて身動きがでなくなるか、自暴自棄になって、なぜこんなことになったのか。なぜ自分がこんな目に合わなく

てはいけないのかと、誰かを非難したくなることでしよう。「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。」
(出エジプト記一四章一三節)
これはモーセが葦の海の前でエジプト軍に追い詰められた時、奴隷から解放されたことに不満を言い始めたイスラエルの民に向かって言った言葉です。出エジプト記はその後何度もイスラエルの民が不平不満を言って、モーセを困らせ、神の怒りに触れるまでに墮落してしまう彼らの姿を書き残しています。
つまづきが不安を生み、不安は恐怖へと変わり、一度生まれた恐怖は次々と新たな恐怖を生み出して私たちの心を蝕んでいきます。ニュースやインターネットでは毎日、亡くなった人の数や、政府の対策について取り上げ、一方で全く現状を理解していないかのような政策に対して不満が募り、多くの人たちは怒ることにも疲れ始めています。

しかし、四世紀前に生きた人たちが、多くの犠牲があったにも関わらず生き残ることができたのは、ニュースや新聞で語られた伝染病の恐怖にただ怯えていたのではなく、恐怖の原因について正しく向き合ったからです。病気の正体は分からない、治療薬もまだない。しかし、勇気を持った人たちが、非難を恐れずに感染経路を断ち、できる限りの消毒をして、空気感染を防ぐ環境を用意することで、恐怖と戦い、そして生き残ったのです。
現実の恐怖にただ心を疲弊させ、不満だけを募らせるのではなく、私たちも身の回りのできることを実行しながら、この苦難が過ぎ去ることを祈り続けましょう。
今、世界ではこの伝染病との戦いの中で、国や人種、あらゆる境遇を越えて協力する力、共に励まし合う仲間が生まれています。
今日、わたしたちのために行われる主の救いに目を凝らしましょう。



—心の窓をひらいて—

福音と私(二二六)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

小樽聖公会信徒

セシリア 三溝 千春



【好きな聖句】

「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共にそれに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

(コリントの信徒への手紙一 一〇章一三節)

戦後世の中が落ち着いて来た頃、私は教師の父とクリスマスチャンの母の間に一人娘として小樽に生まれ、六歳の頃から母の実家で大勢の叔父叔母がいる大家族の中で育ちました。母は友人の大竹敏子さんの導きで一九四九年小樽聖公会で受洗しており、私は母に連れられて自然に日曜学校に通うようになりました。

その頃、小樽は天城司祭が司牧されており、教会には子

入り、私にも生徒が沢山いて

演奏会出演等もしていました。が、その後私の人生で最も辛い出来事が待っていました。

一九八六年に一年の内に相次いで両親が亡くなったので

す。父は亡くなる前「牧師さんと呼んでくれ」と頼んだので、最後に三澤司祭より緊急洗礼を授かりました。哲学科の出身だったのでキリスト教の知識は母よりもずっと

持っていたとは思いますが、最後は母の信仰に従ったのでした。それからたった半年後、母は悲しみから癒えないまま、三日間の入院で亡くなってしまいました。

すっかり打ちのめされた私を暖かく助けて下さったのは教会の方々でした。この時程オルガンで奉仕出来る事を感じました。ありがとうございます。それからオルガンニストに復帰し、三澤先生夫妻始め教会の皆様で大変お世話になりました。一年後に洗礼、接手を受ける事が出来ました。

その後、聖歌の会を起し聖歌の合唱録音をして皆さん

に買って頂く活動を始めました。これは甲斐司祭夫妻や教友の大きな協力のおかげで信徒の方も加わり、一三年間続ける事が出来ました。

その間の事、一九九七年に長年の夢だった英語のキャリアを本場で付けたいと、私は司祭方が勉強された英国バーミンガムのセリオークカレッジに一年間留学しました。前にも投稿した事がありますが、ピアノのお陰で学長のジョージ・カヴール司祭の講演の伴奏者として私を度々利用して下さい、英国中の多くの教会を訪問、暖かいおもてなしを受けました。この一年間は世界中の友達が出来、楽しく有意義なものでした。更に六年後には、思いがけず学長から三ヶ月の招待を受け、大変有り難いプレゼントでした。

帰国後は教会を会場にお借りし、英語教室を始めました。レッスン後には岡村トシ子司祭の美味しい手料理と、知識豊かで楽しい会話が待っていました。このほっこりする時

間は何よりの癒しでした。その後は叔母の介護、看取り、自分の病氣等試練が続き、ピアノの練習も難しくなりましたが、最近では集中力が戻り楽しんで弾いています。神様は耐えられないような試練の時にも必ず別の良き道を備えて下さいました。また教友や周りの方々の大きな助けのおかげで、ここまで歩いて来る事が出来ました。

今回、自らの歩みを振り返り、自分自身で切り開いて来たと思つた道が、実は母が祈りと共に敷いてくれたレールだった事に遅れ馳せながら気がつきました。母と信仰について話した事がなかったのは、本当に心残りです。

小樽聖公会は若い永谷司祭が運んで来た新鮮な空気と共に、少しづつ変わろうとしています。最近では、静かに「神様の御心のままに」とお祈りする事が多くなりました。

福寿草母の祈りをうけつが

千春

常置委員会報告
第五回 三月一〇日

《協議事項》

一、新型コロナウイルス対応
に関する件
・教役者は主日礼拝をそれぞれ
の教会で定時に捧げ、信徒

は家庭で礼拝を捧げる。教区・
教会での行事や会合は中止か
延期をする。感染防止対応を
各教会で励行する。
・臨時の教役者会を三月二〇
日に開き、今後の礼拝などの
対応、また感染対応を話し合
う。

二、「出会いと交わりの日」
の経費の件
・昨年同様の拠出を確認した。
三、教区礼拝に関する件
・式典長は永谷司祭とする。
四、稚内聖公会、旧双葉幼稚
園の件
・現況について報告を受け、

今後について協議した。
五、常置委員交代に関する件
・尾関敏明さんの退任により、
四月より後任を矢部幸子さん
とすることを確認。
六、教区事務所職員に関する
件
・四月一日より職員として採
用する高橋愛さんの職務、処
遇について確認をした。
七、上平更執事のU二六全国
集会出现に伴う経費に関する
件
・出席を承認した。経費につ
いては管区に問い合わせる事
とした。



主教室より

「お前は怒るが、それは
正しいことか?」。私が何
か理不尽に怒っているとき
に、時々、妻がぼつんと独
り言のように言います。こ
れは旧約聖書のヨナ書四章
に出てくる言葉です。預言
者ヨナが神から、二ネベに
行つて人々に悔い改めを呼
びかけるように命じられま
すが、ヨナはそれを受け
入れず、船で別の地に逃れ
ようとしています。そして大荒
れになった海で船から放り
出され、大きな魚の腹の中
で三日三晩祈り、悔い改め
ます。魚の腹から救い出さ
れたヨナに再び神は二ネベ
に行くことを命じ、ヨナは
それを受け入れ、二ネベの
人々に、あと四〇日すれ

ば二ネベの都は滅び
ると預言するのです。

二ネベの人々はそれ
を聞いて大いに悔い改め、
神に立ち返ります。

悪の道から離れた二ネベ
の人々を神はご覧になり、
くだそうとした災いを思い
直されます。ところがヨナ
は自分の宣告したことがそ
の通りにならなかつたこと
に腹を立て、どうか私の命
を取ってください、死ぬ方
がましですと神に向かつて
怒るのです。二ネベの人を
救つことよりも、自分の行
いが蔑ろにされたことが彼
にとつては重大だったのだ
です。その時の神の言葉が、

「お前は怒るが、それは正
しいことか?」。
このヨナの言動には笑え
ないものがあります。理不
尽なことが起きた時、自分

「お前は怒るが、それは正
しいことか?」。
「たいへんね・・・」と慰
めてほしいのですが・・・。
主教 ナタナエル 植松 誠

「お前は怒るが、それは正
しいことか?」という言
葉は、あたかも水で頭を冷
やすように私たちに降りか
かります。この言葉は、神
の叱責ではなく、もう一度
立ち返つてよく思いを巡ら
し、わたしの業を見なさい
ということではないでしょ
うか。
と言いながらも、つまら
ないことで怒ってしまうの
が人間。そんな時、本当は、

十 教区逝去教役者
記念聖餐式

五月二三日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司 祭 岩 田 慶次郎

伝道師 山 田 致 人

一九〇二年五月九日

伝道師 伊勢田 清 美

一九三七年五月九日

伝道師 ペネロピー アン

フィッシュヤー

一九八九年五月一日

司 祭 佐 藤 信 康

二〇〇九年五月一日

伝道師 エデイス ルイーザ

ベアトリス ノートン

一九五二年五月一日

司 祭 與賀田 千 秋

一九九七年五月二八日

司 祭 伊 東 松太郎

一九三七年五月二三日



北海道教区からの
お知らせ

*新型コロナウイルス対応のため

◎ 教区礼拝(五月二六日)
中止とします。

◎ 奏楽クリニック(五月
一五日、一六日) 開催を
中止とします。

◎ 礼拝研修会(六月一二
日、一三日) 開催を延期
します。

(時期未定)

歴史ニュース二〇二〇(二)

「ちよつと五分だけ…」

歴史文書保管委員会

委員長 アンデレ 下田 尊久

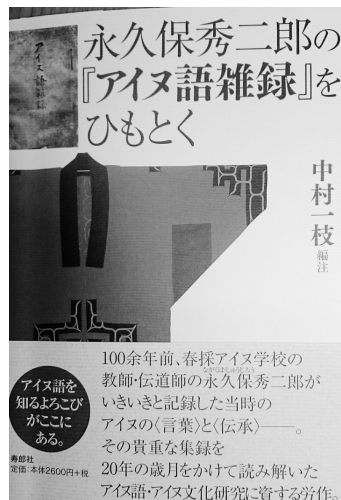
教区の歴史文書に長くかかわった中村一枝さんが、昨年末に主のもとに召されました。今回はその関わりと働きをとおして「歴史」委員会の歩みと役割を紹介します。

歴史編纂から資料保存への歩み

「歴史文書保管委員会」の始まりは、「教区歴史編纂委員会」です。一九六三年一月の常置委員会で九〇周年記念行事の一つとして年史発行をめぐし設置されました。上田主教により、委員には当時の渡辺政直司祭および桑山隆氏が、顧問には野坂司祭が指名されました。昨年の歴史ニュース(二〇一九年六月号)でも紹介しましたが、二年に及ぶ資料の収集、整理により一九六六年三月に『教区九〇年史』が編纂発刊されま

した。この九〇年史は、北海道教区、日本聖公会のみならず多くの団体や個人の研究の根拠となる資料として長く使用され今日に至っています。その後委員会は「教区歴史編集委員会」となり、八〇年代は沖田幸造氏が信徒委員でした。一九九〇年になると現在の「歴史文書保管委員会」となります。一九九二年、釧路アイヌ文化懇話会、札幌女性史研究会会員で、大谷地伝道所に通う中村一枝さんが委員となりました。当時、中村さんは郷土史家としてCMSと釧路聖公会によって建てられた春採アイヌ学校の永久保秀二郎伝道師やCMS女性宣教師ルーシー・ペインの研究で教区の保存資料の整理は自身の調査にもつながるものでした。

二〇〇四年、雨宮司祭を長



100余年前、春採アイヌ学校の教師・伝道師の永久保秀二郎がいきいきと記録した当時のアイヌの〈言葉〉と〈伝承〉。その貴重な集録を20年の歳月をかけて読み解いたアイヌ語・アイヌ文化研究に資する労作。

とし委員に中村一枝さんのほか中村陽三さんと三浦千晴さんが加わり、教区宣教一三〇周年を記念した年表「北海道の聖公会―先人たちのあゆみをとおして―」がまとめられます。その作業では保管資料の整理とともに「九〇年史」を見直すいくつかの事実も加えられ、調査で得られた成果は、中村さんが「歴史研究」(日本聖公会歴史研究会)や「女性史研究ほっかいどう」(札幌女性史研究会)などに発表することで教区保存資料の研究成果公開のきっかけとなりました。なかでもアイヌ伝道の初穂となった金成太郎とパンキ・ペテロスについての記述と二人のルーシー・ペインの記述に同一人物として誤解される記述があることが

判明しました。長く春採アイヌ伝道の研究を続けてきた中村一枝さんの資料調査が誤認を解消することに繋がったのです。また、教区内外の研究者たちが貴重な資料の存在を知ることで、規則にもとづく保存と公開という「見える化」が求められています。年表は一般公開されませんが、整理された資料の可視化の指標として、利用のための記録保存の足掛かりとなりました。その結果、資料整理に専門知識が必要となり、三浦千晴委員が小樽で開催された二〇一一年度国文学研究資料館アーカイブズ・カレッジ(史料管理学会)を受講する機会を得ました。こうして、保存資料は外部の研究調査に寄与できる教会アーカイブズへと歩みを進めています。

利用と公開 中村一枝さんを偲んで

二〇一九年二月七日、ル

チア中村一枝さんはご自分の生涯かけて関わってきた「女性史」研究の仲間との会合の帰路倒れられ八八歳で生涯を終えられました。中村一枝さんと日本聖公会とのかかわりは、地元釧路の春採アイヌ学校で活躍された教師永久保秀二郎の日誌との出会い、さらに永久保とともに活動したCMS宣教師ミス・ルーシー・ペインの研究に始まります。釧路で始めた研究は、札幌に移っても続けられ、一九九一年に「永久保秀二郎の研究」がまとめられます。前述のように新しくなった現在の歴史文書保管委員会の委員となります。一九九三年秋、誕生もない札幌第四の教会で大町司祭の導きのもと洗礼堅信を受け、「新札幌聖ニコラス教会」信徒となりました。二〇一六年まで委員を勤め、その後も最後まで作業チームのメンバーとして「教区九〇年史」正誤表の整理を続けながら、教区内外からの参考調査を一手に引き受け処理されました。研究家である中村さんに

とっては教区事務所の保存資料の整理は研究に欠かせない情報源との接点であり、資料調査により幌別アイヌや日本人女性伝道師のことも新たな成果を公表してきました。いつも多くの方に「ちよつと五分だけ…」と声をかけ、研究のことについて話が尽きないのでいつの間にか三分、時には一時間以上に及ぶことも。自らの戦争体験や宣教に携わった女性たち、アイヌの想いを胸に、飽くなき研究の日々を過ごしておられました。昨秋釧路の新図書館で釧路アイヌ文化懇話会例会に参加、再会と講演に大変満足して帰札、その後まもなくの主日礼拝後のこと「私は(委員会を) 退任いたします」と宣言され、この例会でご自身の仕事に区切りをつけて来られたのだと感じました。

ここに心から哀悼の意と教区の宣教の歩みを歴史家として検証して来られた働きに深く感謝の意をささげます。

公 示

救主降生 2020年3月13日

日本聖公会北海道教区

主教 ナタナエル 植松 誠

下記の人事異動を行います。

- 司祭 アルバン 阿部 芳克 2020年3月31日 紋別聖マリヤ教会牧師の任を解き、定年退職とする。
- 司祭 フランシスコ 飯野 正行 2020年4月1日付で、紋別聖マリヤ教会協働司祭、紋別幼稚園協働チャプレンに任ずる。
- 主教 ナタナエル 植松 誠 2020年4月1日付で、紋別聖マリヤ教会管理牧師、紋別幼稚園チャプレンに任ずる。
- 司祭 ヘレン 木村 夕子 2020年4月1日付で、道北分区における協働司祭に任ずる。(任期1年)
- 司祭 ミカエル 広谷 和文 2020年4月1日付で、紋別聖マリヤ教会協働司祭、紋別幼稚園協働チャプレンに任ずる。
- 司祭 パウロ 内海 信武 2020年4月1日付で、平取聖公会及び新冠聖フランシスコ教会での嘱託司祭、またバチラー保育園チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)
- 司祭 アンデレ 甲斐 博邦 2020年4月1日付で、道北分区における嘱託司祭及び深川あけほの保育園チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)
- 司祭 ダビデ 藤井 八郎 2020年4月1日付で、函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会での嘱託司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)



▽小樽聖公会

新型コロナウイルス感染症対策として三月一日の主日は永谷司祭が教会で礼拝を守りました。八日以降の主日では、礼拝が長くないよう、聖歌を省略するなど、教会での対策も行い、数名〜半数程度の出席で礼拝が守られています。

また、信徒が自宅で主日を守るための助けのために、「自宅で行う主日の祈り」式文、「信施袋」、「聖書日課」、「代祷と黙想の手引き」が郵送されました。イースターを迎えますが、信徒の交わりのために「近況報告とイースターの挨拶」を寄せてもらえるよう返送用ハガキも届けられています。

▽岩見沢聖十字教会

「二人か三人がわたしの名において集まっているとこころは、わたしもその中にいるのです」マタイ一八・二〇。感染症拡大の為、三月より教会での礼拝を控え、各自が家庭や個人で主日をお捧げする。一日も早い収束を願うと共に

時のリーダーの為に祈る。年度末を迎え、幼稚園も休園。卒園式・修了式も規模を縮小。渡部兄弟の長女・柊子ちゃんが卒園。「おめでとうございます」。聖十字つ子らしいお子さんでした。四月より南小入学と聖十字広場・学童保育スキップへ。成長を祈る。

▽旭川聖マルコ教会

コロナ対策のため、当教会もいろいろ変更を余儀なくされています。緊急電話連絡網を使って、非常事態に突入！電話、ハガキ、封書、訪問による牧会がなされました。主日礼拝は短縮して(熱のこもる聖歌は歌わず、説教は短め

に)行っています。みんなが集う聖餐式、「マルコ食堂」自由に語り合えた日々が懐かしい！そのありがたさが身に沁みます。頌栄保育園の卒園式(一四日)も時間を短縮して行われました。教会を代表して山崎典美さんがお祝いの言葉。それでもとつても心温まる卒園式でした。感謝！

▽室蘭聖マタイ教会

三月に入って暖かい日が多く、水道の元栓を止めなくても済み感謝です。

三月一日、八日、一五日の主日は、コロナウイルスのため、休みでしたが、三週間は長く感じて、二二日の二時から、吉野司祭により聖餐を受け、嬉しくて感謝の涙が出ました。亡くなった人や、治療中の方々のために祈ります。

▽網走聖ペテロ教会

沢山の困惑と希望の中での三月だったかと思えます。一人一人の祈りに主の導きと豊かな祝福を与えて下さる事を信じます。網走は今年も雪が少なく、毎年駐車場排水

溝に関して委員会で話されませんが、今年は三回の雪どけ水排除作業で終わりました。

家庭で祈りを捧げられている信徒の皆さんですが、それぞれが気にかけて、声をかけ、手紙を添え、連絡を取り合っています。再び愛する兄弟が一つ所に集まり礼拝を捧げる事が出来ますように祈ります。

▽北見聖ヤコブ教会

ふきのとうが顔を出し、春の訪れを告げています。

コロナウイルス感染症拡大は北見でも影響が大きく、皆さんマスクをしています。教会の皆さんも九〇歳近い方々ばかりですので、心配と祈りの内におります。透析をされている方は自宅で病衣に着替え病院に車で行っている形です。日赤ではあちらこちらに「面会禁止」の貼紙が。廊下でも「どちらへ」と訊かれます。司祭は天の証人が雲のように取り囲む聖堂で独りで礼拝しています。

早く落ち着きますように。

▽深川聖三一教会

三月一日(日)主日礼拝自肅が主教様の教令により始まる。あけぼの保育園の卒園感謝礼拝、チャプレンの筆書きの一メートル長さの赤色ハートの絵のついた「光の証」卒園証を六名にプレゼント。

一二日保育園の職員会議、紹介できないのが残念な主任作成の月間予定表―勤務体制早番遅番、休日者、有休者、行事等一日で判る組織の「すぐれもの」か！一四日(土)第四七回卒園式、卒園児と保護者のみ出席の淋しい式典となる。神様に守られて教会員、園児職員は健在です。感謝。

▽新冠聖フランシス教会

この度の「新型コロナウイルス感染症」の影響で、新冠での主日礼拝は二月一六日(顕現後第六主日)を最後に行われておりません。したがって、予定してありました大斎節の「灰の塗布」も中止ということになりました。そんな中、牧師は三月二〇日の「臨時教役者会」での主教さ

まの書簡を配布するために、翌二日に信徒宅を訪問して安否を問い、祈りをして参りました。みなさん特にお変わりはありませんが、小泉たかしさんが体調を崩しておられます。ご加祷ください。

▽帯広聖公会

三月になり、まとまった雪が降りました。確実に春に近づいていることがうれしいはずの季節に、世界中を震撼させている新型コロナウイルスの拡大が止まりません。帯広でも影響を受けて、自宅での祈りを守る日々が続いています。

高齢者や基礎疾患のある社会的弱者への蔓延はなんとかして防ぐ必要があります。一日も早い収束を願うものです。信徒消息、二月二八日、室谷三郎兄逝去。三月二七日、黒澤雪子姉逝去。亡くなられた方々の魂の平安をお祈り申し上げます。

▽稚内聖公会

ようやくしばれが緩み雪も溶け出す。稚内の風物詩「真

鱈の寒干し」も始まり、街に活気が戻る季節だ。が、総合複合施設「副港興市場」が三月三十一日をもって閉鎖。レス

トラン、お土産店、天然温泉「みなとの湯」などが集まり、市民の憩いの場となってきただけに淋しい限り。イースター

の礼拝は四月一九日と決定。会衆はおそらく五名以下、また宗谷地方にはコロナウイルスもおよんでいないことから、例年のように(もちろん注意しながら)お祝いできることと楽しみにしている。

▽苫小牧聖ルカ教会

主の御名を賛美いたします。コロナウイルスにより、三月一日、八日と二週にわたり主日は自宅での祈り。

その間教会では、吉野先生が礼拝を守って下さいました。不安の中、適切な周知指示をいただき心が穏やかに。

▽稚内聖公会

五日からコロナ対策を主日礼拝が執り行われました。二週間ぶりの礼拝、やは

り心が落ち着くのはここでであると実感。

聖ルカ幼稚園では、一号園児が休園。その中でも保育は続けられ、園の先生方のお働きに感謝。一日には園児一名につき付き添い二人までのご理解をいただき、第六一回卒園式が無事行われました。

これからも主の豊かな祝福がありますように。また、三月三日をもって藤林園長がご勇退。苫小牧では六年間にわたり、教会と園のためにご尽力いただきました。

これからは帰郷されゆつたりと過ごされるとのこと。主のご加護のもと、いつまでもお元気でいてください。感謝。

▽札幌キリスト教会

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて札幌キリスト教会では三月中の当教会での諸行事を当面中止あるいは延期にし、主日礼拝も無理をせず

▽札幌聖ミカエル教会

自宅で祈りの時を持つことになりました。三月一日、東日本大震災九周年の祈りを捧

げました。三月四日、吉田愛さんご逝去、召されし霊の平安をお祈り致します。三浦千晴聖職候補生が帰省されました。

パッサカさんは東京へ、ケファロニテス芳枝さんは埼玉へ赴かれました。お二人との交わりと、ご奉仕に感謝します。

▽新札幌聖ニコラス教会

感染症対策のため「閉ざされていた」教会の扉がようやく開かれました。依然厳戒態勢ではありますが、二二日、植松主教様着座二三周年の記念の日に、当教会にお迎え

の礼拝が献げられましたことに感謝。共に集まって祈る幸せを改めて感じました。礼拝堂での祈りを献げ続けておられる教役者の皆様へ感謝。

教会の庭の水仙が芽を出しました。イースターまでに咲きますように。...

▽札幌聖ミカエル教会

こういう教会だよりを書くことになろうとは思いませんでした。三月、礼拝はすべて教役者と少人数の信者

さんで守ることとなりました。その場合も間隔を取り、換気をしながら、さらに礼拝も大幅に短縮されています。

いま、教会が経験していることが信仰的によいような意味を持つのか、やがて示される時が来るでしょう。しかし、今はひたすら信者さんの命と健康が最優先です。どうか主が守ってくださいますように。そしてウイルスによって困難の中にある方々に回復と平安がありますように。

▽平取聖公会
新型コロナウイルスのまん延により三月一日から二日の間、信徒の集まる礼拝をしていなかった平取の教会ですが、二九日は信徒も集まって礼拝をし、その後イースター礼拝について教会委員会を開きました。四月一二日に午前

は新冠の教会で、午後は平取の教会で信徒が集って礼拝を捧げるようになりました。愛

餐会は行いません。世界の感染の終息を祈ります。

▽稚内聖公会

保育園は年長組が卒園し、

四月三日に入園式を行います。一〇名が入園する予定です。新職員が一名採用されます。退職者は一名です。

▽有珠聖公会

有珠の地の春の訪れは、例年が増して早く、会堂に続く参道も緑芽吹いています。

三月二十九日、聖餐式が、新

型コロナウイルス対策を尽くして行われました。礼拝の後、今春予定の諸行事について話し合いました。「三浦綾子読

書講演会」と「胆振三教会合

同礼拝」の両行事の実施は、断念することになりました。

各地での講演会キャンセルが続く三浦綾子文学記念館の森下辰衛先生のお働きを、今年は献金をもって微力ながらお支えし、来年の開催を期する事としました。

▽留萌キリスト教会

北海道知事による緊急事態宣言以降、教会は穏やかに集うことが難しくなりました。

新型コロナウイルスという全く新しい危機と対峙することになり、何をどのようにする

べきかの判断に悩みながら一か月が過ぎて行きました。

留萌管内ではウイルス感染者数はゼロであることから、

感染予防策を講じた上で各自慎重に礼拝の出席または自粛

を選択している状況です。

二十九日は植松主教の巡回礼拝でした。礼拝後には速やかに解散する段取りで通常の聖

餐式をお捧げしました。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

新型コロナウイルス感染の影響で主日礼拝は制約されながらも、聖餐を頂く者、祝福

だけ頂く者。また、自宅で司

祭からのメッセージを拝読しながら祈りの日々を守る多くの兄弟姉妹がおります。その

中で、一二日アンデレ三枝佑

嘉兄が逝去されました。ご家族を支えながら入退院を繰り返

返し、その合間にも教会での

礼拝を守る信仰の篤い方でした。魂の平安とご遺族に主の

慰めが与えられますようお祈りします。

保育園では、卒園式・進級

式を終えると前田博美園長が紋別幼稚園園長として赴任。

そして、鳴海範子姉が新園長として任に就きました。お二人の今後のご活躍と主の豊かな祝福をお祈りします。

厚岸の教会は佐田さんご家族が見守ってくださっています。感謝。

▽函館聖ヨハネ教会
今まで経験したことのない三月でした。見えないものに立ち向かう難しさ、世界中で起きて

いるウイルスの感染拡大に、祈りの時間が増えてい

ます。

大齋中に企画した「寄り添うという使命」半田ウイリアムズ郁子氏が講師の、高齢者・

病気の人とその家族への心のケアについての講演会も、延期になりました。多くの方が

楽しみにしていたお話です。

「主日を過ごす祈りの冊子」を司祭が手渡し配布、心を込めて自宅礼拝でき感謝。

境内は、観光客の姿もなく、信徒は天気の良い日、教会を訪れ、枯葉集め、物置の掃除

を黙々と行っておりまし。▽今金インマヌエル教会
秋に蒔いた小麦も緑色になって順調に育っています。

毎日の報道で不安な日々を過ごすことになった大齋節ですが、自分の罪を悔い改め、

兄妹姉妹の平安を個人で祈りました。

三月二日、大齋節第四主日礼拝は一二名の出席で守ることができました。

二六日、教会境内地の薪をトラックに積み込み二八日、函館聖ヨハネ教会信徒宅に搬入し、御奉仕に感謝します。

藤井司祭、直さん一年ご苦労様でした。又、今年度もよろしく願います。

▽紋別聖マリヤ教会
オホーツク海には流水が行ったり来たりでまだ肌寒い

紋別です。教会幼稚園共々、新型コロナウイルス拡大により家庭で祈りを捧げるようになりました。幼稚園では一八

日に卒園式が行われ、父兄一名、教職員の皆様、園長先生の元で、二五人の園児が旅立

たれました。阿部牧師夫妻が六年の務めを終え定年退職な

されました。淋しくなりますが、札幌での生活の第一歩を

ゆつくり過ごして欲しいと思っっています。お守りください。

▽聖マーガレット教会
三月一五日(日) 大齋節第三主日。植松主教による司式

説教の聖餐式。新型コロナウイルス対応期間の制約の中、

九名で行う。このような状況であるからこそ、キリストの

恵み、慰めを深く味わう。

二〇日(金) アブラハム佐藤雅之輔さんが急逝。一二日、

九三歳の誕生日を迎えたばかりであった。遺言により礼医

大へ献体。主の平安と光明を祈る。

三〇日(月) 棕櫚の十字架を婦人会の有志が集い、作製

祈りを込めつつ。

